お世話になっている関係者の皆様へ

「未来からやってきた森」封切りを祝して

ひかり味噌株式会社
代表取締役　林善博

C.W.ニコルさん三周忌を迎えた2023年から着々と制作を進めてきたショートアニメーション「未来からやってきた森」がとうとう封切りされました。このプロジェクトにささやかながら、ひかり味噌がスポンサーとしてお手伝いできたこと、大変うれしく、光栄に思います。

ニコルさんが1986年以来延々と森の再生に取り組んできたのは、森が心をはぐくむ「心の再生」に身を投じようと決意したからに他ならない。それほどまでに、ニコルさんは日本を愛し、日本人に惚れ込んでくれました。「私は日本人以上に日本人だよ、日本人は良いもの沢山持っているのに、どんどん失っている、いいかげんに日本人しっかりしろよ」と深夜に熱く激しく語り掛けていたことは、今も鮮明に私の胸に自戒の念として刻みこまれています。

心の再生－そのために、ニコルさんが最も熱心に接したのは子供たち。アファンの森を舞台に、未来を託す子供たちに一心に愛情を注ぎ込んでこられた。子供に託すこと、それは将来を信じること。

ニコルさんは、森の再生には100年を要することを知っていた。その決意は脈々と受け継がれ、もっと広く理解と賛同を得たいとアファンの森財団は「未来からやってきた森」を決意、実践されました。

そう、私達にもHIKARI100Xがあります。2036年、それは創業100年の節目に私達のなりたい姿を成文化した崇高な決意表明です。そして、アファンの森も、ひかり味噌も100年で完了でなく、100年とは、「永続・永遠」のひとつのマイルストーンに過ぎないのではないでしょうか。

将来に希望を持ち、次世代の幸せと物心両面の豊さを願って、私がひかり味噌のリーダーとして為すべきこと、それが、ニコルさんの辞世の句とも表現できる詩「森の祈り」にありありと表現されています。

「森の祈り」ーC.W.ニコル　2016 年 6 月

私にできること

願わくは
わたしは一本の木になりたい
暗闇の中に広く、深く根を張り
しっかりと土を抱えて
この地球を支える一本の木に

願わくは
わたしは一本の幹になりたい
空に向かって、まっすぐに、力強く
重ねた歳月と季節を年輪に刻み
すくっと立つ大きな柱に

かなうなら
この身を一枝に変え
光射す彼方へと手を伸ばし
風に揺れながら
天に祈りを捧げたい

願わくは
わたしは一枚の葉になりたい
瑞々しい緑の葉に
木陰を作り、清冽な息を吐き
春から秋にかけては
きらめく木漏れ日と戯れ
やがて命尽きれば密やかに舞い落ちて
再び森の土へと還るのだ

かなうなら
わたしはなりたい、どんぐりに
木の実に、ベリーに、果実に
食料を分け与え、広く種子を撒けるよう

さあ、みんなで一つの森になろう
それぞれの強さを持ち寄り、違いを受け入れ
砂漠に緑を取り戻そう
わたしたちの大切な惑星に
新たな命を育てるのだ

わたしたちの手で木を植えよう
この大地に
そして、みんなの胸に

末筆ながら、ニコルさんへの感謝と、淑やかながらも情熱と決意と実行のリーダー森田いづみ理事長率いるアファンの森財団のますますの繁栄を祈念し、そして何よりも、私達ひかり味噌アソシエイト、及び、日頃お世話になっている関係者の皆様のご多幸を祈念し、「未来からやってきた森」封切りの祝意を表します。

以上